

編集後記

今月号の目玉は、何といっても知事対談です。40分の予定だった対談は、1時間を超えてしまいました。県民の方と直接会って話しをすることを、知事は楽しみにしています。それ以外にも、宮本さんが持って来られた1個1300円のみかん(ごぶつのみかんなんです。しかも生産者価格です。)には知事はじめ同席者が目をまわりました。(雅)
「知事への直行便」の封筒と便箋を県の各施設、各市町村、銀行、農協、郵便局窓口には設置しました。御利用ください。(郁)

表紙のことは 友枝雄策

今号から一年間表紙デザインを担当させて頂く事になりました。年間6回発行の季節に合わせて肥後六花をモチーフに、6月号の肥後花菖蒲から翌年4月号の肥後芍薬まで、今までの表紙とは少し傾向の異なるモダンなデザイン表現でいきたいと思います。これから一年間よろしくお願ひ致します。

シーン'91 撮影のことは 長野良市

風薫る五月。有明海の潮風と樅や椎が茂る、三角岳の吹きおろしの風がおち合う所に建物はありました。この高台から街を見降ろすと、西港の100年の歴史を垣間見る思いがします。

北国、北海道よりお便りします。ママさん特派員をされていた友人より、南風にのり「KAZE」くまもと大好きが届きました。ページをめくっていらっしゃるうちに、都会では得られぬ、温かさを感じ熊本大好きになりました。今度の旅は熊本だと心ひそかに決めました。我街札幌も自然環境が良くなれば河川の汚染が少しでも少なくなればとの願いが少しづつ通じ、何十年ぶりが故郷の豊平川に鮭が戻ってきたのも全く嬉しいことです。
次回のママさん特派員の方々又くまもとの良い所を再発見して、良い所をおしえて下さい。
札幌市 松村友子

達がたくさんいます。私たちは、現地の先生方と協力して学校農園プロジェクトを展開。そこで作った野菜などを学校給食にしています。そうすると、「食一バーツ(約六円)で給食を食べることが出来ます。一週間分六バーツ。これは出し忘れた年賀状や会合出欠のはがき一枚の価値と同じです。
皆さんの家庭にある書き損じはがき(消印のないもの)を、タイの子供達のために譲ってください。お願いします。
送り先、お問い合わせ
熊本市西唐人町一六 地球市民の会熊本事務局 山口久臣 096-3695142



給食は自分で準備する(器1杯が1人分)

さわやか〜ぜ



お便り募集

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200〜400字程度にまとめてお送りください。
(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)



●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

愛読者募集

県では、県広報紙KAZE(くまとの風)の愛読者を募集しています。「くまとの風」は、くまとの新しい動きやユニークな人、県下各地の催物などを、写真やイラストを織り混ぜてお届けする広報誌です。あなたも、この機会に「くまとの風」で素敵な出会いを体験してみませんか。

■発行/偶数月発行 年6回 ■郵送料として/1,500円(郵便切手でお願ひします。)■お申し込みは/〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号 熊本県広報課「くまとの風」係

毎朝ラジオ

RKK
「ふれあいくまもと」
毎週月曜日-土曜日7:40-7:45
FMK
「県庁ダイアリー」
毎週月曜日-金曜日7:30-7:36

週末テレビ

TKU
「フラッシュくまもと」
毎週土曜日 12:55-13:00
KAB
「くまもとの彩」
毎週土曜日 22:51-22:57

県政番組

KKT
「くまもと'91」
6/8日 10:45-11:15
7/6日 10:00-10:30
RKK
県政特別番組
秋にむけて撮影快調!

くまもとと美のたより

県立美術館収蔵品から 高橋廣湖筆「貴賤苦樂」

高橋廣湖は、明治時代後期に異画会や日本美術院を中心に活躍した日本画家。山鹿市出身。

明治三十年単身上京し、歴史画家の大家松本楓湖に入門した。明治三十四年第五回日本美術院展出品の《天孫降臨》で銅賞を受賞。岡倉天心に認められた。翌三十五年の第七回展にこの《貴賤苦樂》を出品。四度目の銅賞に輝き、廣湖の世評を固める出世作となった。

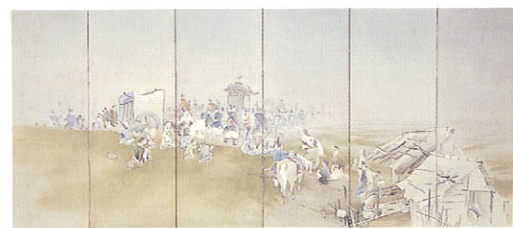
画題内容は、京都の賀茂祭(現在の葵祭)。近景の貧しい荒屋に暮らす庶民の情景描写に力点を置いて、優雅に練り歩く新興と従者一行を画面中央に一つの塊として捉え、遠近法により主客を転換している。近代絵画としての写実性と表現性を重視し、加えて当時の日本美術院派の近代絵画創造のための大きな課題であった色彩の開発が強く廣湖の心をとらえていたことを窺わせる。横に広く広がる水平線上に研ぎすまされた消失点を見るような遠近法、また灰色の色調の空間処理などは、西洋画の影響に負うところが大きい。

明治三十年代にあつて、横山大観、菱田春草らの推進した朦朧体の手法や西洋画の陰影・遠近法などに果敢に取り組んで日本画に新風を吹き込んだ、当時の日本美術院内でも前衛的な画家の一人であった。明治四十五年、三十七歳の若さで没した。

(県立美術館学芸員 古家良一 記)



《貴賤苦樂》部分



高橋廣湖筆《貴賤苦樂》
明治35年
絹本着色、屏風装(6曲1隻)
171.0×378.0
熊本県立美術館蔵